

冴える

神宮詩織

孤独の夜は生活の輪郭を鮮明にするから
心に映るすべてが心配だ

ミルクに潜む膜は触れるまで形を成さない
傷心と感受は私の指の皮膚を通じて
全身をめぐる

わずか2ミリが外と私の隔たり

薄皮に赤い光が透けて

不安の感触を知る、安心していく